

自治体と連携した地域密着型産業による 地域包括ケアシステムの構築支援

- 2023年3月22日
- 「中山間地域」調査研究事業報告会
- 埼玉県立大学・慶應義塾大学
- 田中 滋

地域包括ケアシステム 定義

- 『新版 地域包括ケア サクセスガイド』(2020年,メディカ出版)
「日常生活圏域を単位として、何らかの支援を必要としている人々を含め、誰もが、望むなら、住み慣れた地域の住みかにおいて、自らも主体的な地域生活の参加者として、尊厳を保ちつつ安心して暮らし続けられるための仕組み」
- 定義はこれからも変遷・進化

地域包括ケアシステムの進展：3次元

■ コアの進化：高齢者の長寿化

- 医療・介護・保健専門職の協働と客観的評価
- 事業所間および制度間の連携

■ 広がり：多世代へ

- 暮らし支援・居場所・役割 ⇒ まちづくり

3

■ 深化／深まり：分断がもたらすリスク軽減

- 社会的孤立・排除の防止と早期対応
- 社会的包摂 ⇒ 共生社会

地域包括ケアシステムの進展・広がり 超高齢化に応じた地域デザイン

- 地域デザイン力が弱くとも大部分の住民は自活できた
- 家庭内自立でも暮らし支援要：フレイル予防／進行緩和
 - 日常生活機能：一部の家事・外出・家電操作・通信 etc.
 - 一定のリテラシー要：金融・住まい・契約・財産管理/相続 etc.
 - 突然の困りごとへの対応
 - 家族も超高齢者もしくは死亡
- 地域力の維持？ 中山間地域の課題
 - 自治体と連携した地域密着型産業による地域包括ケアシステム構築支援：本調査研究事業の目的

プレフレイルとフレイル

■ ADLとIADL悪化要因

- 加齢
- つながり減少
- 体力・気力の低下

■ 体力・気力の低下をもたらす「ライフイベント」

- 仕事からの引退
- 別離
- 急性期入院 etc.

地域社会におけるつながり構築 ライフイベントにも対応

■ 暮らし支援

- 居場所
- 移動支援
- 巡回・訪問

■ 役割

- 暮らし支援・居場所・役割
- 多世代、誰もが
- まちづくり：行政とは異なる自治体の力

地域包括ケアシステムの進展・広がり 多世代を視野に入れた地域デザイン

- 集える・通える場 cf. つながり・楽しみ・役割
 - 要介護者・認知症の人、障害者、幼児のいる家族
 - 差し当たり介護サービスも互助も必要としない高齢者
 - 場：医療機関・介護施設と居住型&通所型事業所・サ高住等
 - 加えて：地域密着型産業・商業・郵便局・学校・図書館など
 - 学生・生徒を含む地域住民一般の関わり
- 比喻で言えば「地域を耕す」

地域包括ケアシステムの進展・深まり

社会的包摂 Social Inclusion

- 生活困窮・孤立・社会的排除
 - 経済格差拡大社会の中におけるケア、複合課題
 - 協同活動・協働作業・自由参加の主体的活動のみならず、共同の場にも加わりにくい人の増加
- 交通機関・金融・商業・生活型産業
- 孤立する可能性のある人と地域を放置しない

おわりに

9

- 自助・互助・共助・公助の組み合わせ
- サービスの複合
- 見守る→役割を作る→支援する
- 尊厳ある看取り
- 暮らしやすいまちづくり・子どもたち